

腰證

肝要五子系介

初篇下

桂枝湯

腹證診梅ノ圖 并肝西世五ヶ条入

其二

藥方七行并ツ

腹證奇覽翼初編下冊

遠江濱松

和久田寅叔虎著

門 豊前中津

原田成憲子欣校

二 腹證診按法并圖

此病者、左、右、着、

サ、ラ、ヒ、ニ、キ、サ、

ハ、リ、右、手、

六、心、上、ニ、ミ、フ、

病人ヲ仰臥セシメ、兩脚ヲ伸サセ、兩手ヲ股ノ側ニ附サセ、醫者

其右邊ニ就、此其常法ヲ以テ、病人右ノ膝臍ヲ其

肩髀ニ抵膝ヲ開、臍下ヲ張、右手ヲ其心上ニ覆、安シ

消息須臾ニシテ、始テ診按スベシ、其次第先其覆安ノ

手ヲ徐ニ左右ニ移テ、虛里ノ動及心胸中ノ煩悸ヲ候ベシ、

之ヲ名テ覆手壓按ノ法トイフ、心胃一面ニドキト跳リ

テ、其人氣ハツカシク、

さう下ノ診す

腕ノ二ヨリ臍

二至ルニテ幾行

シテアレズベシ

骨

痛ミ甚シキモ

血ナリ

浮腫ノ側骨

右ノ手ヲ用テ

一ニシテ一ノ

痛ナルハ

六章門ノ邊ニ至ル此脇下ノ診ナリ此時脇骨ノ下端ヨリ指

シテ却テ上腕ノ邊ヨリ臍上ニ至マデ左右中幾行モ振按ス

ベシ佐脉ヨリ始テ二行三行及両ノ脇下次ニ少腹ノ左右中

モ亦前ノ如幾行モ按シ傍髀骨ノ際氣衝ノ脈高ノ股際ニ

ハ下焦ノ濕熱ノマデニ及スベシ左右ノ脇傍ノ間細ニ按スベシ

有無ヲ診スル有マデニ及スベシ左右ノ天樞ノ邊ニ於テ小豆諷ノ

凡按テ即痛モノハ血ノ凝滯スルモノナリ次ニ復覆手ノ法ヲ用

指頭ヲ浮告手側骨ニカヲ用テ却テ心下ヨリ臍下マデ次ヲ

逐テ壓シ下ベシ是時醫者ノ身ヲ前ガハリニシテ微ク

壓スベシ此腹中ノ其間意ヲ用テ其指頭ニ礎トコロノ形狀ヲ

審ニスベシ凡正ニ按テ痛サルモノ邪ニ振テ即痛モノアリ

樹ヲ覺

湯ノ腹証
ノ婦人ナリ
ハ徹セザルアリ
テツセザルナリ
ハ腹底ノ動
ノ婦人ナリ
ハ腹底ノ動

流ノ號

男ヤトモニ
乳頭
シムモノハ大虚

病人面股肉大ニ

人ルモノハ凶ナリ

痛ハ血凝滞ナリ

キフゴソウノモノ

肉ナレ弱クモノ

腹弱クモノ

四

湯ノ腹証
ノ婦人ナリ
ハ徹セザルアリ
テツセザルナリ
ハ腹底ノ動
ノ婦人ナリ
ハ腹底ノ動

ハ徹セザルアリ
腹底ノ動
ノ婦人ナリ
ハ腹底ノ動

寒温マテス始終
實着ニ診シテ
蒼卒ニ按スルナカレ病

人ヲシテ最馬愕セシムル勿且其間急テ診スベキモノ上ニ

シテハ顔色眸子唇舌中ニシテハ脇脇腹ノ形狀所謂視

モノ是乳頭ノ萎者男女用乳頭萎下ニシテ股脛膝足

ナリ病人面股肉大ニ脱スルモノハ凶ナリ脇脇腹ノ肉シテ

オキモノハ下血ノ凝滞スルナリ腫氣ノ有無マデニオ

逆冷ノ多クニイタルニテ一ニ心ヲツクベキナリ

ヨブベシ若夫肌膚ノ循按ハ固其中ニ在テ曲盡スベシ

凡肌膚枯燥スルモノハ肉腐濡弱ナルモノハ胸滿腹弱モノハ

其自其患ヲ覺ズトイヘバ概スルニ大虚ノ候トス又

腫氣在焉逆冷ノ多少

便手寸口頸人迎足ノフ陽

大率病篤キ上実ニ下虚ス

腹グサクトシテ
リリルハ色
キモノ非ラズ

瞽瞍ノ肉ヲ按
實ヲ知ベシ

病ニ重キモノハ
上実ニ下虚ス

知毒アリキモノハ
目ニ着ク

虚ハ肛門ツリ

門ツリハ
門ツリハ

胸腹グサクトシテシミリナクハ色白モノハ其人非ヲヤムノ
候ナリ其大率病生シテ診ノゴトキ攷與手スルニ違アラ
ズトイヘハ大率病生シテ診ノゴトキ攷與手スルニ違アラ
右ニ例シテ考ベシ且其前後便ニ隨テ手ノ寸口頸ノ人迎足

ノ趺陽少陰ノ脈ヲモ參診シテ扶起シテ肉袒セシメ上

頸項ヨリ下腰尻ニ至ニテヲ診シ左右臂臑ノ肉ニ及ベシ但

大病篤ニ在モノハ其便ニ隨テ此例ニアラス頸項肩背ハ

テ之ヲ審ニスベシ凡病篤モノハ大率上實下虚ス故ニ

必ス上部ニ凝結ス肩背頸項ノ間ニ於テ之ヲ攷ベシ又

病毒厚モノハ背ニ着或ハ脊骨屈曲或ハ突大出ス又

病人大虚ノモノハ肛門ツリアガリテ尾骶骨タルガ如シ

イヘハ此ニ論ゼス但西ノ臂臑ノ肉ヲ按シテ尚呼吸ノ長短氣

虚實ヲ人カ辨スルハ余門ノステガルトコロナリ尚呼吸ノ長短氣
息ノ多或少呼吸促促トシテ息スルニ足ガルモノハ短氣ナリ短
氣ニ吸息ノ短アリ呼吸トモニ短促

元息吸々トス
ツセントス少ク
ハナク

二キウ長鼓気息
ハナク

語聲清濁

高下ヲギ

ヒンゴマリ

ナイセイアリ

舌諸アリ

チウウ呼アリ

呻吟アリ

一使ニラヨシ七穴

通ソク。利不利

是四診ナリ

カ病ニ三候

ナルアリ。又ヒ氣息吸々トシテ一サニ
語聲ノ清濁。高下ヲ聽
ハナク

二便及七竅ノ通塞利不利
ハナク

或曰萬病ヲ候ニ三候六診アリ。上候ト實ト。虛實間ト。之ヲ
三候トス。脉ト。腹ト。皮膚ト。舌色ト。眼中ト。腎間ノ動ト。之ヲ六

診トス。愚謂其顔色ト。語聲ノ氣息ノ診ト。亦闕ベカラス。故
ニ余門之ヲ併テ三候ハ診トス。若夫陰陽ヲカ。寒熱ヲ

辨ズルハ其中ニ存セリ。一候ト云。ハテ世ノ醫ノ病ヲ診スル。大
スルモノモ。病者ト對シテ。坐シテ。僅ニ心下ヲ按スルノ三。所

謂。按寸不及尺。握手不及足。察其臍臑病ヲ知ニ足ンヤ。

六診アリ。脉ト。腹ト。口ト。舌色ト。眼中

腎間

顔色一諾聲耳ト先息ヲカクベリ。コレニカウハ診トス。ヨククカンガミカレハ
 睡病知シガタシ

㊦

覆手壓按法先拊循法圖

胸腹内ノ静

ツク
 覆手壓按法先拊循法圖
 心腹内ノ静躁ヲ
 候フシ

又覆手

ニテ輕ク

肌膚ヲ

拊循スモノ

滑瀦潤燥ヲ

診スル法ナリ



ツク
 覆手壓按法先拊循法圖

三指撥按法圖

圖ノ下ク三指ヲ側テ指頭ヲ

微動シテ之ヲ按ス。腹皮内ノ

凝滯結聚スモノヲ審ニシ。

且其結聚スモノ

痛ト痛ガルトヲ辨ズ。

若其物微小ナルヲ

覺ヘバ中指ノ頭ガリニテ

カク撥ルシ。

又三指ヲ正シテ直ニ腹底ニ按シ到ルニ

腹底ヲ候ノ法ナリ。名テ正按法トイフ。



ヤウタイ。結シテ
痛ト痛ミサルコ
チス

小エラハ中指ノ
リシバカリニテ

正按ノ法ト云フ

深遠ヲ覺

シク脩シヨク用
トキハ治スベシ

ナキハ方創罪
スソノ方ヲ用ヘズ
方技ヲ嗜テ思
問ニ勉テ思

シ月ヲ積ノ久キ

枝湯ノ法ニエトニ

味ニキナリ

桂枝湯發明ノ說并病因・病證ノ辨

愚熟仲景ノ書ヲ讀ミ其方創ヲ考ル。剛柔相濟・緩急相救簡

ニシテ洩ス易ニシテ失ズ其旨意盡ベカズ。但日ニ益其深遠ヲ

見ノ三益能脩シ喜用トキハ何ノ病カ治スベカラザン何ノ方ガ

功アラザン其功ヲ奏スル能ガルハ方齊ノ罪ニ非善其方ヲ用

ザレバナリ余也短才淺學固其任ニ當ストイヘ但方技ヲ

嗜ノ癖自止ル能ズ好デ問ニ勉テ思歳月ヲ積ノ久粗得

所ルガ如シ猶且其奥ニ入難ヲ困ノミ就中桂枝湯ノ方

タル誠ニ善ヲ盡ス美ヲ盡セリ其味窮ナシ其應用勝テ

言ベカラズ今余カ試験スル所ト發明スル所トヲ記シテ以テ

衣ヲ治スルトハカリハ淺
スノ上衝ヲ治スル

古方ハ一方毎トニ
主治スル所アリ

後世ゴトク内外
モ二ニメ

云加増損

サイニ師

ハサイニ師皆正劑ナリ

同志ノ士ニ貽亦惟千慮ノ一ノ三何ヲ以カ其蘊ヲ盡ニ足ヤ

抑桂枝湯ハ表證ヲ治スルノ藥トノミスルハ固膚淺ノ見ナリ

又氣上衝ヲ主治スト定モ味為ニ緩得也然在頭痛發熱

汗出惡風等ノ表證ト及氣上衝ヲ治スルトハ傷寒論ニ明

文アリテ一モ議スベキナシ何ヲ以カ膚淺ニシテ且イマ得ザルト

スルヤト問バ此ニ一ノ難ズベキアリ凡古方ハ一方毎ニ各其主治ス

所アリテ後世ノ如ク内外モ相混ジテ骨董舖ノ如ナル藥劑ナ

ク君臣佐使ノ分アリテ全五體ヲ具シタル人ノ如造立テサテシレ

ヨリ證ニ隨テ一ニ味ツクノ去加増損ハアレモ正劑本方ハ桂枝

此胡湯ノ如皆正必一官事ヲ管テ他ヲ攝兼スルヲナシ表

劑ノ本方ナリ

故ヲ主治スル主ト又所ナラズ其他ヲ治スルヲ兼スベカラズ

氣ヲ手針ニテ

寧ノサトニ流

衣証ハ解ニテ

スヨリテ上ルヲ流

衝氣ノ暴

劇ヲ挫モセ

中ノドウキノ

受ヲ見スモハ

別ナリ

證ヲ主治スル桂枝湯ナラバ其他ヲ主治スルヲ兼ベカラサルモノ

ナルベキニ又太陽病下之後其氣上衝者可與桂枝湯

若不上衝者不可與之ト丁寧ニ論ノ章アレバ則表證ハ

解ニテ之ヲ下ニ因テ但其氣上衝スルモノヲ治スルヲ明ケン且加

桂湯ハ本方ニ桂二兩ヲ増タルノミニテ他ノ未加モノクハ發汗後燒

鍼ニテ又汗ヲ發シ奔豚氣ヲ發スルモノヲ主治スレバ此亦表證ハ解

テ但衝氣ノ暴ニ據ラ挫モノトスレバ愈々氣上衝ニシテモ主治スル

ヲ疑フ容ズ然レバ氣上衝及奔豚氣ハ表證トスベカラズ腹

中ノ動氣ノ變ヲ見モノナレバ格別ナリ是桂枝湯ハ表證ヲ

モ主治シ又氣上衝ヲモ主治スル兩事ヲ攝兼ストイフベキカ

皮證ヲ主治スルモノ

カハ

難ズベキ所ナリ

古今医家ハ

岐能ニテ旁治

トイフベシ

カニヨウアリ

カニヨウアリ

變通ハタラキナシ

及上ノ論ニ

未ニ走リテ本ヲ極

サレバナリ

主能ノ岐能ノト

シ捨テ

其本ハ一歸趣ナルノ意ヲ了解スレバ

是難ズベキ所ナリ。斯言ハテノ古醫家ハ桂枝ハ但上衝ヲ

主治スルノミニテ。他ノ表證ヲ治スルハ。岐能ニシテ旁治トイフベシト

シテ。此難ヲ解ントスレバ。此モ但斯言ハバカリニテハ少シ聞カタル

ベシ。是故ニ。テノ古醫家ハ上衝ヲ治ス所ヘバカリ眼ヲツケテ。

肌ヲ解シ表ヲ救フトイヘル。肝要ノ所ヘテ思ヲ致サルニヘ。

變通ノ働カ出來カナルナリ。又表解ノ主者トニ思フ。表

證ヲ見ガレバ。北方ハ用ラレヌヤフニ思テ。亦活用ノ手段ガナリ

是皆一等皮上ノ論ニシテ。未ニ走テ本ヲ極サレバナリ。先此表

證ヲ治スルト。氣上衝ヲ治スルト。主能ノ岐能ノトイフノ論ハ姑捨

テ。其本ハ一歸趣ナルノ意ヲ了解セザレバ。イマダ北方ノ深意

ヲカク

方、施用が廣ク
リテ諸病ニ用アリ
テ奏スル活套
得ルナリ先達
非議スルハ己ガ
説ニ似タリ

愈ヲ実ヲ
待タリトス
シ治トシテスル
人刑病ヲ始メ

毒ハ勞傷

ヲ得タリトハ言難シサバ今一段思ヲ深ニ致テ其ノ歸趣ヲ
ノ意ヲ了解スレバ特此方ノ施用が廣ナリテ諸病ニ應ジテ
奇特ノ功ヲ奏スル活套ヲ得ナリ先達ヲ非議スルハ余テ
己ガ醜ヲ説ニ似トイヘ止フヲ得ズレテ此辨ニ及ベリ且左ニ
愚説ヲ述テ其歸趣ノ一ヲ臆ハ反テ穿鑿ノ説ナリトシテ
笑モノモアランガ兎ニ角ニ廣病痼ノ愈ヲ以其實ヲ得ト
謂ベシ其他ノ議論ハ固醫ノ與サル所ナリ余ガ是ニテニ試
驗シタルトコハ世ニ難治ト稱スル天刑病ヲ始トシテ或ハ瘰癧
壞證ノ癰毒或ハ癰疽惡瘡及鬱毒勞瘵積聚
ノ類凡百ノ氣血壅滯表位ニ属スモノ證ヲ審ニシテ之

カイヲ得片ハ
カ病ニ變通所

四

人身ノ陽氣ハ天ノ
元氣ニシテ我内ニ
結所アリ一身運
行ノ氣トナルニシ
トウセツ考スニ
氣イシ食ヲ消化
スルナリ

血精モシレキモイニ食セイクハニテ陽氣ノ主宰スル所ナリ

ヲ與効ヲ奏セストイフナシ日ニ新ニ其妙ヲ覺ノ三豈啻桂
枝湯ノミナランヤ凡仲景傳所ノ藥劑其方意ヲ得トキハ
万病ニ涉テ變通ノ妙アラストイフナシ初學ノ士其方ノ簡
易ニ失テ思辨ノ勞ヲ致ザンヲ恐テ敢テ煩言ヲ厭ズ其
說ヲ述フ左ノ如シ
夫人身ノ陽氣ハ即天ノ一元氣ニシテ之ヲ我内ニ結所アリテ
一身運行ノ氣トナル上冊腎間動此氣又飲食ヲ消化
スル酒保ノ酒ヲ造ガ胃府ニ釀成テ其精液ヲ一身ニ運
轉サ粕ヲ大便ニ下シ水汁ヲ小便ニ利ス水汁ト精液トハ
ニテ燒酎ヲサレバ血精モ津液モ概スルニ皆飲食ノ精精華ニ
取餘ガ如シ

陽氣ヲテ四タイニ達シキヲナルニテ陽氣ノ力ヲ示スルモノ也
コノウスルナリ又生レテシテ食ノヤシイニマツテ天ノ陽氣ヲマツキモツナリ
ヨウ生ハイン人良セツスルヲ本トス 命ヲタモツハキモノ順ニガレハ人命ヲ代
ルイナリ

血精シニ丑キ
シテ陽氣ノ主宰スル所ナリ形軀ハ陰ニ属シテ地ノ類ナリ故ニ凡

シ水ハ陰ソグ
形アルモノ血精津液飲水皆陰ノ属ニシテ静ナルヲ常トス陽氣ヲ

動ナシノ元氣
得ザハ流動スルヲ能ズ 氣血分ニアルモノヲ陽氣ト名ケ血ト

動ナシノ元氣
津液ハ田中水穀ノ生スルトコロ陽氣ヲ得テ能ク體ニ

動ナシノ元氣
津液ハ田中水穀ノ生スルトコロ陽氣ヲ得テ能ク體ニ

動ナシノ元氣
津液ハ田中水穀ノ生スルトコロ陽氣ヲ得テ能ク體ニ

動ナシノ元氣
津液ハ田中水穀ノ生スルトコロ陽氣ヲ得テ能ク體ニ

動ナシノ元氣
津液ハ田中水穀ノ生スルトコロ陽氣ヲ得テ能ク體ニ

動ナシノ元氣
津液ハ田中水穀ノ生スルトコロ陽氣ヲ得テ能ク體ニ

動ナシノ元氣
津液ハ田中水穀ノ生スルトコロ陽氣ヲ得テ能ク體ニ